

本学部での「総合的な学習構成論」と教科横断的な総合的な学習

白 神 聖 也

広島都市学園大学 子ども教育学部

要 旨

本学部では平成26年4月の学部創設時から、「総合的な学習構成論」を授業科目として置いたので授業担当者としてカリキュラムを作成した。宮島遠足の計画など授業内容については新たに創造した。実践の中でいくつかの成果と知見が得られた。また、平成14年度から広島大学附属中・高等学校で「総合的な学習」を実践した。そのいくつかは今後も生かされるものとする。

キーワード：総合的な学習，統合学習，教科間結合，カリキュラム開発

はじめに

本学部では、平成26年度の新設時から、3年次の科目として「総合的な学習構成論」が選択科目として設置され、平成28年度から3年次後期科目（全15時間）として5年間実施してきた。令和3年度からは、「総合的な学習の時間指導法」として実施される。今までの実施の概要と授業内容の創造をまとめた。また、中学校での環境をテーマにした「総合的な学習」と高等学校での生物をコアとした教科をまたいだ「総合的な学習」の創造と実践について報告する。

1. 「総合的な学習構成論」の位置づけ

「総合的な学習構成論」は、3年次生後期の選択科目（小学校コースのみ必修）になっているが、本学部では初等教育コース、小学校コースの全員が履修するように指導している。実際の履修率はほぼ100%である。令和2年度からは、文部科学省の指針により教員養成系大学の教職課程での小学校教諭免許必修科目として3年次生が履修する。「総合的な学習」は新学習指導要領においても今までと同様に実施するよう、小学校、中学校、高等学校とも週1時間の授業時間が定められている。目標や内容の大枠は学習指導要領で示されているものの、文部科学省検定教科書はなく、年間計画や具体的な内容は学校に任されている。評価は数値ではなく文である。

また、筆者は平成14年度の全国的な「総合的な学習」の時間の導入時から、広島大学附属中・高等学校で授業担当として実施してきた。中学校も高等学校も学習指導要領どおり週1時間割り当てられたが、その形態と内容は多様であった。

2. 「総合的な学習構成論」のカリキュラム

平成28年度の後期のカリキュラムは、次のとおりである。

- ① オリエンテーション，小学校学習指導要領での位置づけと目標・内容
- ② 総合的な学習の種類と方法
- ③ 総合的な学習の内容と事例
- ④ 総合的な学習の授業実践「ドングリの利用」
- ⑤ 事例学習「地域の人々を幸せにする方法」
- ⑥ ディスカッション，ディベート，ジグソー法
- ⑦ 宮島遠足の計画
- ⑧ 学習指導案の書き方
- ⑨ 総合的な学習とICT
- ⑩ 模擬授業「広島県の自然」
- ⑪～⑭ 宮島遠足の実施
- ⑮ 記号調べ（いろいろな記号と記号の創造）

3. 本学での「総合的な学習構成論」での実践

（1）宮島遠足の計画と実施

宮島へ小学生が遠足に行くことを想定し，教師としてどのように計画を立てるかをまず考えさせた。与えたものは，JRの時刻表，宮島航路の時刻表と，計画用紙である。遠足の場所として，宮島を選んだ理由は，日本三景および世界遺産でもあり地域文化を理解するのに絶好であることである。

学校は本学の場所に「宇品西小学校」が存在するとして，1学年2クラスで，宮島に紅葉を見にいくことにし，計画を立てさせた。条件は，広島電鉄の市内電車で広島駅まで行ったあと，JR普通列車で「宮島口」まで行き，フェリーで宮島に着いた後に紅葉谷公園まで徒歩，到着後に昼弁当を食べるというものである。集合は宇品西小学校8：30，解散は16：00に宇品西小学校とした。

計画用紙には，目的，経路と内容，持参物，注意点を書かせて，模範的で実行可能と思われる行程をみんなで実行して，気づきを考察するようにした。JRと船の時刻は必ず具体的に書かせた。集合確認やトイレ休憩の時間がかかることは事前に伝えた。

学生は実施後に思ったより小学生の行動には時間がかかることに気づいた。実際には人数が多いし，児童も多様なので移動には想定以上の時間がかかることは伝えた。また，持参物や注意点も実施することで新たにわかっていくが多かった。学生は，何より計画を自分自身が立てることと実行することを楽しみにし，当日は先生役・児童役を楽しんでいた。これは，紅葉の時期を選んだことも要因としてあるだろう。広島に就職する学生だけでなく，自分の地元である他県に戻って教職に就く学生にも役立ったと思われる。一方で，教員（筆者）は，現代の学生が冊子体の時刻表になじみがあまりなく，スマートフォ

ンなどで時刻表などを調べることに慣れていることがわかった。

（２）ドングリの利用と記号調べ

「ドングリの利用」の授業では、大学構内のマテバジイの実を持ってきてスケッチさせ、その後にドングリを使った小学校での総合的な学習を５事例考案させレポートを提出させた。「記号調べ」の授業では、ふだん目にしている交通標識や施設、生活用品の記号をいくつか示した上で調べさせ、新たな記号を１つ創造させた。また、年度によっては、学習指導案を書かせ、実際に模擬授業を行わせた。

４．中学校・高等学校での実践

（１）中学校での実践

① ゴミ問題

平成14年度の広島大学附属中学校の２年生の「総合的な学習」の時間では、ゴミ問題（ゴミ問題とリサイクルを考える）への取り組みを行った。担当は２学年担任と副担任の６人で、内容は主にペットボトルの処理について考え、実際にゴミリサイクル工場へ見学に行った。また、使用済みペットボトルを再利用して、生徒各自が生活用品を時間をかけて製作した。

② 環境

平成16年度からの広島大学附属中学校２年生の「総合的な学習」では、理科内容を中心とした幅を拡げた環境学習を行った。自然環境と気象に関する幅広い学習を地球規模で考える授業を構成し、理科の教員２人で２年間実施した。

（２）高等学校での実践

① スーパーサイエンス・ハイスクールに関する学習

平成15年度から広島大学附属高等学校は、スーパーサイエンス・ハイスクール（以下、SSH）に指定された。その関係もあり、「総合的な学習」の時間では、高等学校１年、２年の「総合的な学習」は、SSHに関する大学の先生の講演や大学や研究所の訪問で、理科か数学を中心とした課題研究も行った。主に理科および数学の教員が分担して企画・実行した。これについては、筆者の過去の学会発表、論文を参考にされたい。

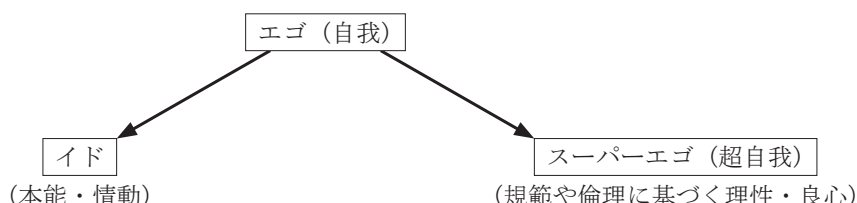
② 高校「生物」の中での教科横断型学習

平成14年度から、広島大学附属高等学校の「生物ⅠＢ」や「生物Ⅰ」の中の授業で、教科を越えた授業内容を実施してみた。

１）心理学、脳科学、文学をつなげた「脳のはたらき」

「教育への提言」（吉岡一郎）を引用したプリントを教材に、前時に学習した大脳新皮質、古皮質、新皮質、間脳、延髄について、大脳生理学者である時実利彦の「脳の話」（岩波新書）により、『生きている』：間脳、延髄、『たましく生きていく』：大脳旧皮質・古皮

質、「うまく・よく生きていく」：大脳新皮質 と分けるとともに、精神分析学者のフロイトの理論と対応させ、『エゴ（自我）』が『スーパーエゴ（超自我）』（理性）と『イド』（本能、情動）をコントロールしていることを述べた。また、精神科医で作家の神谷美恵子の考えを発展させ、一方に偏ると罪を犯し、もう一方に偏ると神経症などになる矛盾した人間存在というものについて言及し、自分を含めた人間の生き方や行動を省察させ、他者も含めた人間理解に役立つように心がけた。また、文学作品の夏目漱石作の「こころ」の「私」と「K」との確執と葛藤はその矛盾した人間存在とエゴをテーマにしていることを述べた。



2）音楽と自律訓練法を取り入れた「自律神経系」

自律神経系の交感神経と副交感神経は体内で拮抗して働いているが、「促進」と「抑制」ということばでの説明では間違いになり、「活動的」と「休息的」ということばで説明した。また、「試験や試合の前」（交感神経）と「昼寝をしたいとき」（副交感神経）の体のようすを想起させた。それでも実感として、両神経がどのように各器官や腺に作用しているかが生徒にはわかりにくいので、音楽を利用した。交感神経のテーマミュージックとしては、サザンオールスターズの「勝手にシンドバット」を流し、副交感神経のテーマミュージックとしては、サンサーンスの「白鳥」を流すことで、イメージを持たせた。また、そのとき自らの体内がどうなっているかを考えさせた。また、自律訓練法を生徒に教えて実際に行わせ、副交感神経が優位になる方法を会得させた。

おわりに

このような大学での「総合的な学習構成論」の授業の考案や中学校、高等学校での「総合的な学習」の創造と実践を積み重ねることが事例となり、指導法や実践が発展していくものと考えられる。各学校での事例が積み重なり、書籍も出版されてきたが、未だに「総合的な学習」は大学でも小・中・高校でも試行錯誤の状態である。令和3年度からの本学での「総合的な学習の時間指導法」に事例と課題を生かすことができればと考える。

参考文献

- 文部科学省、「小学校学習指導要領」，東京書籍，pp.110-115，2008。
 文部科学省，「小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」，東洋館出版，2008。
 広島大学附属中・高等学校，「中学校第2学年総合学習実施計画および実施状況『リサイクルとゴミ問題について考える』」，平成14年度広島大学附属中・高等学校中等教育研究大会資料，2002。

井ノ迫泰弘, 三根直美, 橋本浩, 尾澤勇, 世羅晶子, 白神聖也, 「教科発展型総合学習実施計画および実施状況『創意くふうをこらした身の回りの作品作り』」, 中等教育研究開発室年報第16号, 広島大学附属中・高等学校, pp.107-108, 2003.

白神聖也, 横山道昭, 「中学校第2学年総合学習『環境を考える』」, 中等教育研究開発室年報第18号, 広島大学附属中・高等学校, p.127, 2005.

吉岡一郎, 「教育への提言」, 教育と健康 第5号, 広島県教育公務員弘済会, pp.13-21, 1985.

時実利彦, 「脳の話」, 岩波新書, pp.127-191, 1962.

神谷美恵子, 「生きがいについて」, みすず書房, 1980.

神谷美恵子, 「人間をみつめて」, みすず書房, 1980.

The Practices of “The Structure of General Learning” in our Department and some Integrated Studies

SHIRAGA Masaya

Hiroshima Cosmopolitan University Faculty of Childhood Education

Abstract

The lecture “The Structure of General Learning” was introduced as the 3rd grade lesson in our department in 2014. Accordingly, I have created the curriculum and contents of “The Structure of General Learning”. I practiced this lecture, and then I found some characters. Some integrated studies in the secondary school are introduced as the examples of other practices.